

飛驒市長賞

飛驒市立河合小学校 六年 土田庵斗

「読書は面白い。」一年生のころ、ぼくはそう思っていた。しかしいつしか、ほとんど本を読まなくなってしまったー。

今年の夏休み。ぼくは、久しぶりに本を最後まで真剣に読んだ。そして、久しぶりに本を読むとき、周りのことをわすれて読みこんでしまった。そして、その時思ったこと。それは、「読書は読んでみないと分からない」とだ。その理由は三つある。

一つ目は「題名と内容が合っていない本がある」ことだ。ぼくが読んだ本の題名は、と中の出来事をもとにしたもの。ほぼ関係なかった。だから、読む時どんな内容かが気になるようになったのだ。だから、読んでいくうちに本の印象が変わり、本が面白くなる、というわけなのだ。

二つ目は「読んでいるうちに、自然と面白くなってくる」ことだ。初め、興味がそこまではないのでテキストに読んでいた。だが、いつの間にか周りのことをわすれて、ひたすら読み続けていたのだ。ぼくは、読み終わってからすぐおどろいた。それと同時に、全く興味のなかった本に対し、面白かったと思えたのだ。少しでも気になったらすぐ読むべきだと感じた。

三つ目は「自分にあまり関係のない本でも、考え方が変わる」ことだ。今回の本は、自分とちがうところが少なかった。が、今まで深く読むできた本のなかには、自分に関係ないものもある。特に、三年生の夏休み、読書感想文に使ったものは、自分に関係するものがなかった。でも、その本を読んでから、たくさんのことを想像するようになったのだ。本は読むと自分の色んなことが変わることを改めて知った。

ぼくは、これからも本を読み続けたい。物語、図かん、小説など。様々な本を読んでいきたい。気になった本はその場で読んだり、図書館で借りたり。色んな方法がある。「読書は面白い。」再び心の中によみがえった。